

Drive My Car

あっという間に3学期も半ば。まだまだ寒いので暖かくして過ごしましょう
 昨年公開された映画『ドライブ・マイ・カー』。上映時間が180分と聞いて敬遠していたのですが、パンフレットを見せていただいた時に「やっぱり見たい！」と思い、見に行ってきました。原作は『女のいない男たち』という短編集の中の1つ。先に読んでいたのですが、どんな風にお話が広がるんだろう？と不思議でした。同時収録されているほかの短編『シェエラザード』『木野』も取り入れられていて、小説の世界観も広がるようでした。作中ではチェーホフの『ワーニャ伯父さん』を上演するシーンがあり、その演出がとても効いていました。気になったので原作も読み、このセリフはあのシーンで使われていたものだ！と発見したり、改めて映画の解釈を考えることができおもしろかったです。舞台が東京・広島・北海道・韓国と移り変わり、どの場所もとても魅力的でした。私が特に印象的だなと思っていたシーンが韓国版のポスターになっていて、やっぱり良かったよなあ、と嬉しくなりました。ほかの国のポスターもおしゃれだったので気になる人は検索してみてくださいね。当初の予定では韓国・釜山での撮影が予定されていたのですが、コロナ禍のため断念。その後広島での撮影が決まったそうです。ストーリーに場所が変更されたことの違和感が全くなく、もし釜山で撮影できていたらどんな映画になっていたのか見てみたくなりました。主演の西島秀俊さんをはじめ、どの俳優さんも素敵でしたが、特に印象的だったのはイ・ユナ役のパク・ユリムさん。『ワーニャ伯父さん』では日本語、英語、中国語などが飛び交う中、韓国手話で演技する彼女。一挙手一投足をしっかり見ることになり、手話に乗せた感情や言葉が染み込むように伝わってきました。帰り道は、石橋英子さんが手がけたサウンドトラックを聴いて余韻に浸りました。濱口監督の作品を見るのは3回目。『寝ても覚めても』『スパイの妻』に続き、すばらしい作品でした。カンヌ国際映画祭で4冠、ゴールデン・グローブ賞では非英語映画賞受賞、そのほか、あらゆる賞にノミネートされたり受賞したりしています。そして現在、アカデミー賞の作品賞、監督賞、脚色賞、国際長編映画賞の4部門でノミネート中！

第94回アカデミー賞の発表・授賞式は3月27日。楽しみに待ちたいと思います。



村上春樹

1949年1月12日、京都生まれ。生後まもなく西宮、のちに芦屋に転居。神戸高校、早稲田大学卒業。ジャズ喫茶の経営を経て、1979年『風の歌を聴け』で群像新人文学賞を受賞しデビュー。1987年『ノルウェイの森』はベストセラーとなる。2006年、民族文化へ貢献した作家に贈られるフランツ・カフカ賞を受賞。

濱口竜介

1978年12月16日、神奈川県生まれ。東京大学卒業後、東京藝術大学大学院映像研究科に入学。2013年から招聘作家として神戸市に滞在。2015年『ハッピーアワー』が国際映画祭で主要賞を受賞。2018年、商業映画デビュー作の『寝ても覚めても』がカンヌ国際映画祭コンペティション部門に選出。2020年『スパイの妻』では共同脚本を担当し、ヴェネチア国際映画祭銀獅子賞受賞。

Men Without Women